

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271300362		
法人名	社会福祉法人 森の里福祉会		
事業所名	グループホーム コーヒーの家・紅茶の家		
所在地	〒854-0205 長崎県諫早市森山町杉谷2898番地1 (電話) 0957-36-1670		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年3月18日

## 【情報提供票より】(平成21年 2月 2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算 7.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺平家建 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,000円	

### (4) 利用者の概要( 2月 2日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	81 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛野記念病院・畑中歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景が広がり、近くには小学校や高校、スーパーなどの商業施設がある環境で、一見喫茶店を思わせるとてもアットホームな佇まいである。運営者がロマンティックな環境を追求し、殊にクリスマスシーズンはホーム全体にイルミネーションの装飾を施し、地域の方にも夢を与えている。地域の方々と自然にふれあう中、「子ども110番の家」の協力要請も受けており、そこにはあたりまえの暮らしが営まれている。職員は得意分野を活かすと同時に、全職員がどんな場合でも平等に対応ができるよう意識統一が図られ、ホーム独自の信念のもと、自信をもって生活支援にあたっている。職員の結束力がとても強く、笑顔の絶えないホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の課題については、改善計画シートを活用し、職員全員で意見を出し合い、質の向上に向けて取り組まれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の各項目について全職員で確認を行い、意見を出し合っている。理念に基づき日々取り組んでいることに自信を持ち、現状に満足することなく向上していくことを信念としている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議としては、平成20年度は1回のみ開催であるが、地元警察署による「オレオレ詐欺」防止の講習会参加のほか、地域の方を対象とした様々な取り組みを機会あるごとに実践している。来年度は、運営推進会議の開催を念頭に置いて年間計画に組み込み、家族や地域住民、行政など会議参加メンバーの構成を検討し、意見交換の機会をさらに増やしていけることを期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは包み隠さず報告することをモットーとしており、家族からも率直な意見が聞かれている。夏祭りやクリスマスの行事で家族が集まった際に、家族会を開催している。家族から出された意見等については会議で検討し、運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム前の道が通学路でもあり、小学生の子供たちから元気の良い挨拶があり、入居者は笑顔で手を振っている。日々の生活の中に、地域の方との挨拶やお付き合いなど自然なふれあいがある。そのほか町内行事や学校行事に参加したり、ホーム行事への参加を呼び掛けたりと、地元の人々との交流は盛んである。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	福祉を通じて地域の方々の生活を支援したいという法人理念を礎に、入居者と家族のように共に暮らし、入居者が差別や偏見のない暮らしができるように支援したいとの想いを込め、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の心に浸透している。就業前や機会あるごとに、事務所壁に掲示されている『注意すること』を『理念』と共に各自振り返り、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム前の道が通学路でもあり、小学生の子供たちから元気の良い挨拶があり、入居者は笑顔で手を振っている。日々の生活の中に、地域の方との挨拶やお付き合いなど自然なふれあいがある。そのほか町内行事や学校行事に参加したり、ホーム行事への参加を呼び掛けたりと、地元の人々との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の各項目について全職員で確認を行い、意見を出し合っている。理念に基づき日々取り組んでいることに自信を持ち、現状に満足することなく向上していくことを信念としている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議としては、平成20年度は1回のみで開催であるが、地元警察署による「オレオレ詐欺」防止の講習会参加のほか、地域の方を対象とした様々な取り組みを機会あるごとに実践している。		来年度は、運営推進会議の開催を念頭に置いて年間計画に組み込み、家族や地域住民、行政など会議参加メンバーの構成を検討し、意見交換の機会をさらに増やしていきたい。

グループホーム コーヒーの家・紅茶の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や支所の担当職員とは顔馴染みで情報の交換や共有ができており、協働関係も構築できている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いを直接窓口でされる家族が多く、毎月口頭で個別に報告している。遠方に住む家族へはもちろんのこと、必要時は随時電話で報告している。そのほか行事などホーム全体の様子は、毎月発行している職員手作りの広報誌『TEA TIME』に写真を織り交ぜ掲載している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは包み隠さず報告することをモットーとしており、家族からも率直な意見が聞かれている。夏祭りやクリスマスの行事で家族が集まった際に、家族会を開催している。家族から出された意見等については会議で検討し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない、やむを得ず離職する場合もあるが、引き継ぎ期間を十分に取り、馴染みの職員による支援の継続ができています。運営者や、同法人のデイサービス職員による応援体制もあり、馴染みの関係による支援を重視している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が普通救命講習を受講している。そのほか外部研修の受講や研修参加者による報告会、医療等に関する内部勉強会等を実施し、スキルアップを図っている。また、現場でも随時、スーパーバイザーである計画作成担当者による指導や助言を受けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会での交流があり、特に3事業所間で密に情報交換を行っている。職員は研修会に参加することで同業者職員との交流の機会を持ち、質を向上させている。さらに同業者に留まらず、他の福祉施設や病院とも協働しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>問い合わせがあった際は、同法人の居宅介護支援専門員と同行訪問し、必要な支援の見極めを行い適切なサービス提供につなげており、納得のないままいきなり利用開始することはない。見学は常時対応しており、体験宿泊も可能で、安心して納得しながらサービスを利用できるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念に基づき、入居者と家族のように同じ時間を共に過ごし、同じ感情を分かちあっている。職員が悩んだり迷ったりしている時は、入居者が話を聞いてくれたり相談にのってくれることもあり、人生の先輩、師として学ぶことが多い。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活支援の中で、一人ひとりの何気ない会話や表情、言動などから思いを見逃さないよう把握に努めている。日々の気付きは、「介護・生活記録」に特記し、ケアプランに反映させている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望や意向を基盤に、家族や関係者の要望や意見を踏まえ、職員全員で意見を出し合い検討して、一人ひとりの暮らし方に沿ったケアプランを作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>2ヶ月毎にモニタリングを行い、半年毎に新たに計画を作成している。また、計画期間にとらわれることなく、本人、家族の要望や状態に変化がある場合は、随時見直しを行い現状に即した計画を作成している。</p>		

グループホーム コーヒーの家・紅茶の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人のデイサービス利用者に、入居者の友人や知人がおられ、利用日に合わせて行き来したり、個々の生活歴に応じた面会や訪問、外出等の支援を行っている。また、地区会議で地域の方の相談に応じ、地域包括支援センターにつなげることもある。そのほか遠方の家族に宿泊提供を行うなど、多機能性を有効的に発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受療支援を行っている。協力医療機関の往診のほか、状況に応じて計画作成担当者(看護師)が通院受診に対応している。受診結果を記録し、随時家族へ報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化及び看取りに関する指針」を定め、入居契約時に説明を行い同意を得ている。日頃からどの職員でも急変時に対応できるよう勉強会や話し合い、方針の統一を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーの確保を徹底している。入居者の呼び方や言葉かけは、個々の生活歴や状況に応じその都度使い分けるよう心がけ、日頃から職員同士で注意し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や状態を把握し、個々のペースを大切に、制限のない暮らしを支援している。		

グループホーム コーヒーの家・紅茶の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の希望を採り入れ、入居者と連れ立って食材の買い出しに行っている。食事の準備や後片付けを率先して手伝う方もおられた。その人によって食堂内の好きな場所で食事できるような支援をしており、職員は共に食卓を囲み、さりげなく介助しながら、会話や笑いのある楽しい食事風景であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や状況に応じて入浴回数や曜日を設定している。希望により同法人のデイサービスにある大浴場で友人と一緒に入浴されたり、同様に特殊浴槽での支援もある。また、清潔保持のため、外出、外泊前の入浴や、朝、夕の陰部洗浄も実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花植えや野菜作り、裁縫、手芸、読書など様々な趣味や楽しみごとがある。また、食事の後片付けや洗濯物の取り込みなど家事の手伝いをされる方もいる。また、時にはレストランで外食したり、季節の花が咲くころにはドライブに出かけ、舞台や太鼓の公演があれば鑑賞に行くなど気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の生活必需品の買い出しや、定期受診の延長でのドライブ、同法人のデイサービス利用者である知人を訪問するなど、一人ひとりに応じた外出の機会がある。時には、新聞のお悔み欄で知人の名前を見て、お香典を渡してきてほしいと言われることもあり、可能な範囲で職員も一緒にお悔やみに同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることなく、危険物の保管場所等に十分配慮し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時マニュアルを定め、全入居者参加のもと避難訓練を実施している。近隣住民や地区長へ災害時の協力を要請し、さらに地元消防団へは、入居者の介助レベルで居室を色分けした事業所内見取り図などホームの情報を提出し、連携を図っている。また、食料や飲料水など災害に備えた備品等を準備し、避難マップで日頃から避難経路も確認している。		

グループホーム コーヒーの家・紅茶の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取状況についてはかかりつけ医と連携のもと、血液検査データと体重測定により把握している。家族と話し合いの上で、食べたい物を食べたい時に摂ってもらうことをモットーとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の装飾に季節感を取り入れることを大切にしており、訪問当日はひな祭りの飾り付けが随所に見られ、心和む趣が感じられた。リビングや廊下の突き当たりにも椅子を配置し、団らんや一人ひとりの居場所作りに配慮している。天窓からは程よい光が射し、テラスに植えられた花壇の花々が心の目を楽しませてくれる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物品の持ち込みは自由にしており、本人や家族と話し合い、馴染みの物を活かし、その人らしく過ごせるよう配慮している。本人の趣味が活かされた物に囲まれていたり、テレビがあったり、きちんと整理整頓されていたりと、個性のある居室となっている。		